

## 公民科（政治・経済）学習指導案

- 1 単元名 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化  
この単元は、「2 内容」の「A 現代日本における政治・経済の諸課題」の「(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究」に該当する。

## 2 単元目標

- (1) 現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。  
(2) よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとする。

## 3 単元の指導計画（全体3時間）

## (1) 指導計画

- ・少子化対策の調査 1時間
- ・少子化対策の検討 1時間（本時2/3）
- ・パフォーマンス課題（レポート執筆） 1時間

## (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	・よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとしている。

## (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「少子化問題を解決するために、日本は今後どのような対策をとればよいか」 ・学習課題の理解 ・少子化対策の調査	【ねらい】単元を貫く問いを理解し、問いに対する答えの見通しをもつ。 ・今の日本で行われている少子化対策について調べ、国や地方自治体、企業、地域コミュニティ、個人などの実施主体ごとに整理する。		●	●	(B)現在行われている少子化対策を実施主体ごとにまとめることができている。 (C)他者のワークシートを参照させるなどの支援を行う。	・ワークシート1の記述を基に評価する。
第2次 (1)	【学習課題】「どのような少子化対策が今の日本に必要なか」 ・追加調査 ・少子化対策の検討	【ねらい】社会的なものの方・考え方を働かせて、少子化対策を考察する。 ・第一次で調べた少子化対策をグループ内で発表し合う。 ・評価軸（「自助・共助・公助」の観点や「効率性・持続可能性」の観点等）を決めた上で、調べた政策を整理する。		●		(B)「どのような少子化対策が今の日本に必要なか」を多面的・多角的に考察し、表現している。 (C)他者のワークシートを参照させるなどの支援を行う。	・ワークシート2の記述を基に評価する。

第三次 (1)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「少子化問題を解決するために、日本は今後どのような対策をとればよいか」				【思】(4)ア参照 【主】(4)イ参照	・ワークシート3 の学習課題及 び振り返りの 記述を基に評 価する。
	・学習のまとめ	【ねらい】既習事項を総括する。 ・単元を貫く問いに対する自分の考えを、400字程度でレポートにまとめる。 ・振り返りと自己評価を行う。	○	○		

## (4) 評価問題及び評価規準

## ア ワークシート3の評価規準【思考・判断・表現】

日本の今後の少子化対策について、公民的なものの見方・考え方を踏まえて、多面的・多角的に考察し、表現している。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・多面的・多角的に考察し、自分の意見をまとめている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・公民的なものの見方・考え方を踏まえて、多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして自分の意見をまとめている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・多面的・多角的に考察して自分の意見を説明できていない。 →A評価を得た生徒のレポートを参考にさせ、盛り込むべき視点を指摘する。

## イ ワークシート3の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

自分の学習到達度や学習課題を理解し、次の学習活動に向けた行動ができる。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・自分の学習上の課題を把握し、今後追究したい内容が記述できている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・自分の学習上の課題を把握して、その改善に具体的に取組んだり、今後の学習の見通しを具体的に立てて学習したりすることができている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・学習課題を追究しようとしなない、または、自分の学習上の課題が理解できていない。 →ワークシートを返却する際に、個別にアドバイスをを行う。

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

社会的なものの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に少子化対策を考察する。

## (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・前時のまとめ	・前回、各自で調査した少子化対策を確認する。	・前時にロイロノートで提出したまとめを映写する。
展開	・調査内容の共有 ・少子化対策の検討① ・少子化対策の検討②	・第一次で調べた少子化対策をグループ内で発表し合う。 ・調べた政策を実施主体（政府・企業・地域コミュニティ・個人）ごとに分類する。 ・検討①で分類した政策を評価軸を決めて整理する。	・ロイロノートに実施主体ごとに付箋の色を分けて整理する。 ・ロイロノートのシンキングツールを活用する。

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子化政策のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに日本に必要な少子化政策を発表する。</li> <li>・ 聞き手は、自分のグループとの相違点や疑問点をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループのまとめをプロジェクターで投影する。</li> <li>・ 次回のパフォーマンス課題につながるように意識させる。</li> </ul> <p>●ワークシート2(2)(3)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
-----	---	---	--

(3) 本時の評価規準（※本時における評価は、「学習改善につなげる評価」の場面であるが、研究のために掲載する）

ワークシートの評価基準【思考・判断・表現】

「どのような少子化対策が今の日本に必要なのか」を多面的・多角的に考察、表現している。

ワークシートの判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・ 多面的・多角的に自分の意見を説明できている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・ 多面的・多角的に考察しながら、根拠を明確にして自分の意見を説明できている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・ 多面的・多角的に自分の意見を説明できていない。
→A評価を得た生徒のレポートを参考にさせ、盛り込むべき視点を指摘する。

## 5 成果と課題

### (1) 成果について

#### ア 単元終了時の観点別評価について

上述した評価規準に基づく生徒の単元の観点別評価（ルーブリック評価）は以下の表のとおりであった。

N=197	A	B	C
思考・判断・表現	132 (67.0%)	64 (32.5%)	1 (0.5%)
【参考】9月に別の単元で同一の規準で評価した際の評価	78 (39.6%)	117 (59.4%)	2 (1.0%)
【参考】5月に別の単元で同一の規準で評価した際の評価	24 (12.2%)	164 (83.2%)	9 (4.6%)
主体的に学習に取り組む態度	49 (24.9%)	148 (75.1%)	0 (0.0%)

#### (ア) 思考・判断・表現について

5月の段階では、客観的根拠に欠けるものや論理性はあるものの一つの側面だけを捉えて述べているものが目立った。これを踏まえて指導の方針を修正し、論文の書き方に関する指導を継続的に行ってきた。現在は、5月に見られたそのようなものはかなり減少している。結果として、今回の実践については67%の生徒がA評価となり、割合としては一番多くなった。ただし、A評価の生徒の中でも論理展開が特に優れた37名についてはA+と評価した。

#### (イ) 主体的に学習に取り組む態度について

当初付けた評価ではほぼ全員がAとなったので、自分の学習上の課題や今後の学習の見通しの具体性に乏しいものはB評価とした。その結果、A評価の生徒は約25%、B評価の生徒は約75%となった。

#### イ ロイロノートのシンキングツールの利用について

この実践では、少子化対策をグループで考察させる際にロイロノートのシンキングツールの「座標軸」を活用した。具体的には、生徒はロイロノート上で少子化対策を実施主体ごとに

色分けした付箋でまとめたり、それを座標軸上で整理したりした。視覚化されたことで、生徒はより多面的・多角的に思考することができたと考えている。生徒の振り返りでも、「思考の変遷がたどれて自分のまとめの参考になった」「何を基準に評価するのかを考えるのが大切」といった多面的・多角的思考に関連する記述が多かった。

## (2) 課題について

本実践を通して生徒は概ね単元の目標を達成することができたと考えますが、グループワークの時間を十分にとることができず、議論が煮詰まらないまま、「とりあえずまとめ」という形になってしまった部分がある。残りの単元の配当時間を見直して、もう少しこの単元に時間を割くことを検討するなど、改めて単元の指導計画を立てることの大切さを痛感した。また、議論が煮詰まらない原因に「議論の仕方」や「ICT機器の利用法」を指摘する生徒の意見が散見されたので、この点を改善していく必要がある。

## 6 参考文献

- ・『令和4年度少子化の状況及び少子化への対処施策の概況』（こども家庭庁、2023年）
- ・『なぜ少子化は止められないのか』（藤波匠、日経BP、2023年）